

愛知 放送 雑誌

No. 43

2010. 3

■事務局
研修保育園

〒491-0003 一宮市春明字西柳原47

TEL (0586) 77-1911

■発行者

愛知県幼児視聴覚教育研究会

会長 安藤 哲

- ★ 平成21年愛知県幼児視聴覚教育研究会活動報告
- ★ 第13回視聴覚教育総合全国大会
第60回放送教育研究会全国大会
合同大会(愛知大会)報告
- ★ 第42回愛知県幼児視聴覚教育研究大会案内



平成21年愛知県幼児教育視聴覚研究会活動報告

愛知県幼児視聴覚教育研究会では、平成20年度に視聴覚教材に関するアンケートを行った。その中でラジオ番組の認知度は高くなかった。そこで、愛知県幼児教育視聴覚教育研究会は子どもの聴く力が弱くなってきているのではないかと現状から聴く力をつけるためにラジオ聴取の保育実践を研究員の園で行い、研究を深めてきた。

平成21年度は、8月にラジオ聴取を活用しての視聴覚教材について学ぶために愛知県幼児視聴覚教育研究会研修会を実施すると共に、10月に愛知県で行われた視聴覚教育総合全国大会の分科会でラジオ聴取についての研究発表を行った。

会場 NHK放送センター

愛知県幼児視聴覚教育研究会研修会 日時 平成21年8月26日(水)

ラジオ聴取を知ってもらうことを趣旨とした視聴覚研修会を開催した。

研修会では、参加者のラジオ聴取体験、名古屋市大池保育園のラジオ聴取の実践報告、NHKエデュケーショナルの工藤俊二氏を交えての意見交流を行った。

「ラジオ聴取を行うための環境設定に正解はなく、自分のクラスの原点を見落とさずに工夫することが大事」という実践園からの意見があった。また、工藤氏からは「効果音、セリフを聞いてどれだけ映像が思い浮かべることができるかを考えて制作している」という話を聞いた。参加者からは、「ラジオ聴取を取り入れてみたいと思った」「紙芝居や絵本ではできない部分をラジオ聴取によって想像力や感性が磨けるのではないかと考えた」などの感想が寄せられ、好評だった。



NHKエデュケーショナル
工藤 俊二氏

第13回視聴覚教育総合全国大会

第60回放送教育研究会全国大会 第一分科会 日時 平成21年10月28日(水)

聴く力をつけるために
ーラジオ聴取を通してー

8月の研究会からさらに実践を深めた研究報告を全国大会の第一分科会で行った。名古屋市高針北保育園の実践をDVDで見てもらいながら報告した。

ラジオ聴取に取り組み始めたころは、集中することが難しく、聴取後の感想もお話の内容とは関係ない話をする子もいた。ラジオ聴取は、絵がない分、集中して聴かないとお話がわからなくなってしまうことがあるので、回数を重ねるにつれ、耳を澄まして聴くようになった。感想も「おもしろかった」だけではなく、自分が主人公になった気持ちで「自分も冒険してみたい」などと話すように変化してきた。保育者も子どもと一緒に共感しながら聴くことや絵本、ラジオそれぞれの良さを生かして取り入れることが大切であると報告した。

会場 岡崎市民会館

放送教育研究会全国大会

第一分科会アンケートより

- ・ラジオ聴取が子どもの聴く力をつける手立てになると感じられたので取り入れたいと思った。
- ・子どもたちの想像力をかきたて、自発的に遊びや生活に取り入れていく姿を見て実践してみたいと思った。
- ・教材研究の大切さ、継続聴取の大切さを感じた。

第13回 視聴覚教育総合全国大会

第60回 放送教育研究会全国大会 合同大会（愛知大会）

第47回 東海北陸地方放送教育研究大会 第41回 愛知県幼児視聴覚教育研究大会

大会主題「ネットワーク社会における豊かな学びとメディア」

平成21年10月27日（火）・28日（水）

10月27日（火）

会場 円通寺保育園（午前）子ども未来館「ここにこ」（午後）

午前は豊橋市の円通寺保育園において公開保育、午後は子ども未来館「ここにこ」において円通寺保育園の研究発表と大阪教育大学教授 松本勝信氏による講演が行われた。

公開保育



4歳児 NHK番組『つくってあそぼ』を視聴して

円通寺保育園では、子どもの心を育てる放送教育のあり方を研究してきた。NHK番組の中から子どもの発達を踏まえて、視聴するテレビ番組として4歳児では『つくってあそぼ』、5歳児では『こどもにんぎょう劇場』を選び、実践を積み重ねてきた。

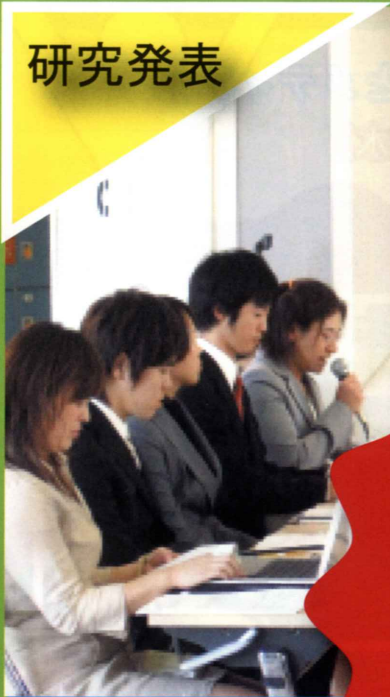
公開保育当日は、4歳児では、一クラスは身近な材料を使ってお寿司や回転寿司のしかけなどを作る『ぱくぱく、もぐもぐ』を視聴し、お寿司作りの活動をした。視聴後2日目のクラスは自分で考えたお寿司を作ったり回転寿司を作ったりする活動をした。

5歳児では、一クラスは『きつねの窓』のお話を視聴し、ペープサートや紙芝居などを作る活動をした。視聴後2日目のクラスは、前日作った紙芝居を見せ合ったり続きを作ったりする活動をした。



5歳児 NHK番組『こどもにんぎょう劇場』を視聴して

研究発表



子ども未来館「ここにこ」

大阪教育大学教授 松本勝信氏



テレビ視聴ならではの良さは、保育者も子どもと同一体験できることである。その良さを生かし、視聴を続けることにより、思ったことや感じたことを様々な方法で表現し、共感し合うことで心豊かになる子どもの育ちを願って、子どもの心を育てる放送教育のあり方を探ってきた。子どもの心の揺れを、視聴活動の視聴前・視聴中、イメージ交流、発展活動、見直し交流の4つの場面を通してとらえながら、それぞれの場面でのねらいや育ちの道筋を考え、視聴実践を積み重ねた。その結果、4つの場面それぞれでの子どもの姿から成果や課題が具体的に見えてきた。研究を通して、見えない心を育てることの大切さ、難しさを感じてきた。また、放送教育で大切なことは、日ごろ保育で大切にしていることであり、決して特別なことではないことがわかった。放送の環境をうまく利用することで、日々の保育を見直し、自己評価しながら、夢・空想を発信できる心豊かな子どもに育てていきたい。

講演

【講師紹介】

大阪教育大学教授、教育学博士。広島大学大学院卒。米国オハイオ州ケント大学大学院に留学しカリキュラム研究と授業研究で学位を取得。放送教育全国大会をはじめ、幼児教育、理科、生活科、道徳などの全国大会・地区大会の講師を20数年に渡り務めている。自然のもつ人格形成作用を柱に、保育所、幼稚園、小学校、中学校等の保育・授業・カリキュラム研究などの著書、論文多数。ソニー教育財団評議員、日本教科教育学会常任理事など。



放送を生かして、心、考える力、人とかかわる力を大事に育てたい。

放送視聴は、保育者が子どもと同じ立場で受信者になることができ、保育者が子どもと同一体験者になることが重要である。子どもは心が揺れたとき、保育者が同じ心、同じ考え方であるかどうかを見ようとする。そのため、同一体験の最中には心の一体感を得られるよう、どの子からも保育者の目が見える位置であること、保育者自身が心を動かしていることが重要である。

放送視聴後は見たこと聴いたことだけでなく、自分はどう思ったかという経験に伴う心の揺れを子どもが語ることが大切で、その見極めが必要である。また、子どもが仲間に伝え合う楽しさを感じることが大切である。放送を視聴して同じ出来事に出会い、同じ心であるという楽しさだけでなく、自分と違う心に出会う楽しさを感じることが心の幅を広げる。

放送視聴後の心の揺れからの遊びづくりでは、出発はまねであるが、“もっとこうしたい”とまねする不満足が子ども自身からわいてくることが遊びづくりの力になっていく。心の揺れからの自分の思いの表現の仕方は、一人一人の子どもに任せていくようにする。そうして、遊びの中で子どもが、“したいことができた”“友達から認められた”という2種類の満足感を繰り返し味わうことが大切である。



10月28日(水)

会場 岡崎市民会館

研究分科会



- 提案2 「五感を通したさまざまな体験を通して、
『自ら学ぶ力』をつけ、豊かな感性と創造性
を育むための視聴覚教育を追及しよう。」
稲置学園 星稜幼稚園 磯 聖子、木浦 和美

子どもがかかわる全ての物を視聴覚教材とし、見たり、感じたり、それを使ったりなどすることで子どもの遊びがより楽しく発想豊かなものになる。保育者は一人一人の思いやイメージを受け止め、認め、感性や創造性が豊かに育つよう直接体験や体を使った表現を取り入れるなど、環境を整えることが大切である。



視聴覚教育の基本は、すべての子どもに映像や音声効果が効果的に届いていることである。感動すると心が揺れ、そのとき子どもは心の交流をしたい人である保育者の目を見る。

日常の保育の中で、保育者は保育の出口(育てたい姿)を考え、活動を通して育ったことを捉えなくてはならない。目の前の子どもを理解してねらいをもち、人的・物的・場の環境を整え、活動を通して心を育てていく。

視聴覚教材を使う場合もねらいをもって活用し、子どもがどう育ってきているか、5領域にまたがる育ちを丁寧に見ていくことが必要である。視聴覚教材を使って同一体験をし、本音で自分の気持ちを語り、子ども同士が自分と違う心に気付いていく中で、心を育てていくことが大切である。

助言

大阪教育大学教授 松本 勝信氏



- 提案1 「紙芝居はもっと魅力的なもの」
～紙芝居を素材として

最大限に活かす実演方法～

雀村学園 鶴ノ木幼稚園 加藤 雄大

紙芝居は、朗読するものではなく、せりふを中心に自分の言葉で進め、演じるものであると考えている。紙芝居ライブをしているが、紙芝居は演じ手と子どもが顔と顔、心と心で響き合うことができ、自然に地域で子どもを育てることが成り立っていく。紙芝居が生み出す夢の世界は、子どもの心の深みに届く力がある。

- 提案3 「放送番組によって心を動かされ、
遊びや生活を豊かにする」
～ラジオ聴取を通して～

香川学園 宇部フロンティア大学附属幼稚園

斎記 恭子

ラジオ聴取は、話からイメージしたことを表現したり友達と伝え合ったりすることで、考え方を広げることができる。ラジオ聴取を継続することから、聞く力や集中力、言葉の獲得、想像力、思いを表現する力がついていく。保育者は子どもの感じ方や受け止め方を把握し、イメージを共有しながら一緒に話の世界を楽しむことが大切である。

- 提案4 「聴く力をつけるために」
～ラジオ聴取を通して～

名古屋市高針北保育園 杉坂 伸

※ 提案内容の詳細については、2ページの
「平成21年愛知県幼児教育視聴覚研究会活動報告」
をご覧ください。

2011年7月24日までに地上デジタル放送へ完全移行

地上アナログ放送から地上デジタル放送へ完全移行する期限は、国の施策により、2011年7月24日までと定められています。デジタル化することにより、電波の周波数に余裕ができ、空いた周波数は有効活用されます。

また、

- 鮮明で高精細なハイビジョン放送を楽しむことができます。
 - いつでも、ニュースや天気などの情報を見ることができます。
 - クイズやアンケートなどの双方向サービスが可能になります。
 - 携帯端末で、外出先でも、いつもの番組ウォッチができます。
- 「ワンセグサービス」(携帯端末向け放送)



受信に関する相談・お問い合わせ先

総務省地上デジタルテレビジョン放送受信相談センター
ナビダイヤル 0570-07-0101

午前9時～午後9時(土・日・祝日は午前9時～午後6時)



ご案内

平成22年度

第42回 愛知県幼児視聴覚教育研究大会

「見て、聴いて、感じる心を育む」

－生き生き遊ぶ西尾っ子をめざして－

日時 平成22年10月29日(金) 10時～16時

会場 公開保育 西尾市立西尾幼稚園
〒445-0864 愛知県西尾市錦城町162-13
TEL 0563-57-2401

西尾幼稚園
西尾文化会館

西尾駅

全体会場 西尾市文化会館(小ホール)
〒445-0877 西尾市山下町泡原30番地
TEL 0563-54-5855



10:00 10:30

11:30 13:00

14:00 14:20

15:30 15:45

受付

公開保育

移動
昼食

開会式

研究発表
講評

休憩

講演

閉会式

編集後記

幼児期の子どもたちに夢・空想の世界を膨らませ、心を育てるために、視聴覚教材の活用方法を工夫して実践していきたいと考えています。

連絡先

NHK 名古屋放送局事業部内
愛知県幼児視聴覚教育研究会 事務局
〒461-8725 名古屋市東区東桜1-3-3
TEL 052-952-7070 FAX 052-952-7036